



今日のキーワード コロナでも注目『フードベンチャー』、フードテック躍進

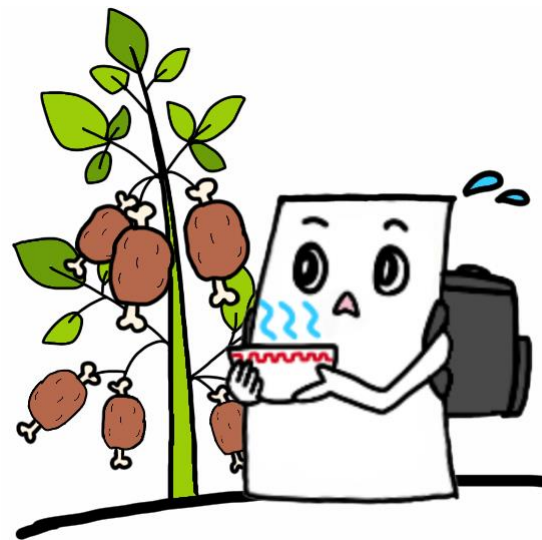
世界的な問題として、人口増加による食糧危機や、地球環境の変化、高齢化に伴う人手不足などの社会課題を解決しようと、新たなテクノロジーを生かした食農分野の技術開発が進んでいます。このフードテック市場は世界で700兆円に上ると言われる巨大市場で、高いIT技術を持つ『フードベンチャー』企業が次々参戦しています。コロナ禍で話題になったビヨンド・ミートなど、『フードベンチャー』への注目度が高まっています。

ポイント1 コロナ禍の新たなニーズに応えるフードテック業界の新企業

- 環境問題や食糧危機への関心、世界人口の4分の1を占めるイスラム教のハラールやユダヤ教のコーシャと云った宗教上の食事制約を持つ消費者に訴求するプラントベースドフード（植物由来の代替肉やミルク）などは昨今知名度を高めつつありますが、今年に入り新型コロナ感染拡大によってサプライチェーンの分断や消費者行動の変化に迅速に対応する技術を持った『フードベンチャー』への注目度が高まっています。
- 米国では大手食肉工場の封鎖が相次いだため食肉の供給が懸念され、プラントベースドミートを販売するビヨンド・ミートへの注目度が高まりました。また、外出自粛によって宅配サービスの需要が高まり、総人口約14億人の中国ではフード宅配サービスで業界最大手のメイトウアン・ディエンピンが業績を伸ばしています。

ポイント2 フードテック投資は2兆円超

- ビル・ゲイツ氏やTwitter創業者ビズ・ストーン氏が出資したビヨンド・ミート、ビル・ゲイツ財団が出資した特殊コーティングで農産物の鮮度を保つアピール・サイエンシズなど、IT業界の著名な経営者らによるフードテック市場への投資が進んでいます。世界的な食農技術専門のクラウドファンディングサイトAgFunderによれば、『フードベンチャー』の資金調達額は、2013年の22億米ドルから2019年には198億米ドルと9倍に増加しており、大きく成長する分野として期待されています。
- 『フードベンチャー』ではフードロスを減らす保存技術や農業用ロボット、農薬や種子の開発から、調理ロボット、宅配サービスまで様々なIT技術が開発・実用化されています。



今後の展開 食糧生産力の向上と安定した農業ビジネスが不可欠

- 世界的な人口増加により食糧危機が懸念される近年、食糧生産能力の向上は必要不可欠となっています。加えて気候変動による災害が増える中で、安定して農産物の生産と収益を上げる持続可能な農業ビジネスを運営していくことが重要になります。『フードベンチャー』の技術はそれらの社会的な要請や消費者行動の変化を背景に今後も大きく発展していくことが見込まれます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

ここも
チェック! 2020年 6月24日 ハイテック株主導で高値更新の米国株式市場
2019年10月18日 人気高まる植物由来の『代替肉』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友DSアセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。